榛名神社報

発行日 昭和六十二年七月一日
発行所 沼田市榛名町二八五一
電話〇二七二(四五)五一二二
発行人 金子包幸

榛名神社由緒

一、鎮座地　沼田市榛名町二八五一番地

一、御祭神
埴山姫命（はにやまひめのみこと）（五穀豊穣の神）
倭建命（やまとたけるのみこと）（土地守護の神）

一、摂社神
菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）（学芸指導の神）
建御名方命（たけみなかたのみこと）（安産加護の神）
大国主命（おおくにぬしのかみ）（良縁結びの神）

上野国神名帳相根郡の部に、倭建命は従一位宝高明神として滝棚の栞林に鎮坐せられ、菅原道真命は従二位雄根明神として根岸（現在地）に鎮坐されていた。

明治の初年、（一八五三）沼田城主真田伊豆守信之公の奉納であります。大鳥居は本多伯耆守正永公の奉納であります。

昭和六年に、榛名神社と称した。

明治六年郡名が廃され、昭和二十一年宗教法人となって以来この利根沼田の総鎮守と称せられている。

格したのであるが、一郡一社の原則により、昭和二十一年、社の西の諏訪神社（建御名方命）を合祀したので御祭神は三柱一座と称せられる。

当社はこの地方人民挙って尊敬を受け、特に沼田氏、真田氏、黒田氏をして土豪氏と氏人城主の尊崇を蒙り、本殿は元和元年（一六一五）真田伊豆守信之公の奉献であり、大鳥居は本多伯耆守正永公の奉納であります。

明治六年郡名が廃され、昭和二十一年宗教法人となって以来この利根沼田の総鎮守と称せられている。

人間とは

感謝の本能を持ち、報恩の本能に至り、最後には氏神祭祀の本能となる。家族揃ってお宮参り出来るのは人生最高の仕合せである。

信念

今やらないで
何時できる
俺がやらずに
誰がやる

神社参拝の言葉

掛けまくも畏き　榛名神社の大前に　姓名恐み
恐みも白さく　大神の広き厚きの恵を　辱み奉り
高き尊きみ教のまにまに　天皇を仰ぎ奉り　直き
正しき真心もちて　誠の道に違ふことなく　負ひ
もつ業に励ましめ給ひ　家門高く身健やかに　世
の為人の為に盡さしめ給へと　恐み恐みも白す

昭和六十二年　月　日

宮司社頭講話

心はどこにある？　一生懸命やることである。

「心を空にして」と云えば、何ぼ真剣にならないことである。そ「心を空にして」と云えば、何ぼ真剣にならないことである。そ子供は体からだの何処に動くのだろうか。子供は体からだの何処に動くのだろうか。子供は体からだの何処に動くのだろうか。